

法學博士左右田喜一郎君著「貨幣ト價值」併ニ「經濟法則ノ論理的性質」ニ對スル授賞審査要旨

(一)貨幣ト價值〔獨逸文千九百九年(明治四十二年)刊行〕

著者ハ夙ニ貨幣ノ本質ニ關スル從來ノ學說ノ甚ダ不備ナルヲ痛感シ明治三十八年「信用券貨幣論」ヲ著ハシテ、抑モ經濟現象ヲ觀察スルニ方リ、雜多ナル素材ノ種々相ニノミ拘泥シ之ヲ形式的ニ統一スルコトヲ怠ルガ爲メ、普遍的實相ヲ捕捉スル能ハザルモノナリトシ、經濟生活ノ研究ニ於テ「アブリオリ」ノ考察ノ重ズベキコトヲ極力主張シタリ。爾來著者ハ親シク歐洲ノ先進學者ニ接シテ其ノ研究ヲ進メクナツブノ貨幣國定學說ノ出ヅルニ方リ周到ナル批評文ヲ公ニシテ、從來ノ通說ノ缺陷ヲ明カニスルト共ニ、新說タル國定學說ノ取ルヘキ點ト取ルベカラザル點トヲ辨別シテ、歐洲學者ノ注意ヲ喚起シタリ。本書ハ舊著ニ端ヲ發セル思想ヲ更ラニ深ク研究シタル結果ヲ披瀝スルモノニシテ、先ヅ從來ノ貨幣學說ノ代表的ナルモノトシテ、クニース及ビジムメルノ價值尺度並ビニ比例學說、クナツブノ國定學說ヲ詳細ニ檢討シテ其ノ長短ヲ指摘シ、次ニ自己ノ研究ヲ述ブルニ先ヅ個人ト社會トノ考察ニ論ヲ起シ、評價者タル個人ノ團體トシテノ評價社會ノ本質ヲ詳述シ、評價ノ發展階段ト貨幣諸職分ノ成立トヲ對照考究シ、貨幣ノ實體價值ト媒介價值トノ別ヲ示シ、貨幣ガ價值ノ客觀的表章タル一事ニ存スル所以ヲ主張シ、此ノ見解ニ基キテ價值ト貨幣ノ關係ヲ考察シ、一切ノ經濟概念ハ貨幣ヲ離

レテ成立ス可キモノニアラザルコトヲ論證スルニ勉メタリ。

(二)經濟法則ノ論理的性質〔獨逸文千九百十一年(明治四十四年)刊行〕

本書ハ前書ノ研究ヲ繼續シ、同一ノ立場ニ基キテ經濟學ノ論理的性質、殊ニ經濟法則ノ意義ヲ評論シタルモノナリ。著者ハ先ヅ三個ノ問題ヲ提出シテ曰ク

(一)普遍化概念ノ形成ノ外、別ニ個別化の概念ノ形成ヲ企ツルコトハ、吾人ノ論理的要求トス可キニアラザルカ(二)經濟學ハ結局演繹體系ヲ完成ス可キ自然科學ナリヤ、將タ又個別化概念ノ形成ヲ企ツル歴史の科學ナリヤ(三)經濟法則ハ因果法則ノ意ニ於ケル法則ナリヤ、若シ、然ラズトセバ、歴史科學ニ於テ抑モ法則ナルモノ存シ得可キヤ否ヤト。

著者ノ此ノ問題ニ對スル解答ヲ概説スレバ、吾人ハ一面ニ於テ悟性ノ究竟ノ限界ヲ認ムルト共ニ、一切認識ノ發足點トソノ方向トヲ規定スルヲ要ス。抑モ認識ノ歸趣ニ自然科學ト歴史科學トノ別アルハ、單ニ吾人ノ任意ニ之ヲ設クルニヨルニアラズ、吾人ガ認識ノ本體ニ存スル二元性ガ此ノ區別ヲ要求スルニヨルモノナリ。經濟學ノ論理的性質ヲ決定スルニハ、須ラク此ノ認識目的ノ二元性ヲ前提トスルヲ要ス。經濟學ハ其ノ究竟最終ノ目的ニ於テハ一ノ歴史科學ニシテ、普遍化の考察方法ハ一ノ補助手段タルニ過ギズ。普遍化方法ニ依ル經濟法則ハ他ノ普遍化概念ト同ジク、知識目的ニ達スベキ一ノ補助手段ト認ムベク、歴史的、個別的の考察ニ於テハ文化價値トシテノ貨幣ナル概念ヲ論理的、內在的、先天的基本トス可キモノナリ。經濟學ハ一ノ文化產物タリ限リナキ進化ノ行程ニ於テ開展シ行クモノ

ニシテ、普遍的概念ハ此ノ限りナキ概念ノ改變ニ限界ヲ供スル點ニ於テノミ意味アリ、經濟法則ハ諸ノ經濟現象ヲ出來得ル限り精密微細ニ説明スルニ有用トナルモノニシテ、其ノ論理的意義ハ此ノ一點ニ存スト云フニアリ。

右二書ノ研究ハ何レモ理論經濟學中最モ困難ナル問題ニ關シテ、先人ノ未ダ試ミザル論理的考察ヲ下シタルモノニシテ、斯學ノ進歩ニ貢獻スルコト鮮少ナラザルモノアリ。歴史學派旺盛ノ徃時ニ於テモ、哲學的推究ヲ怠ラザリシモノ、貨幣理論ニ於ケルクニイスアリ、經濟生活ノ唯物論的考察ノ檢討ニ於ケルランゲアリ、シユタムラーアリ。近時ニ至リテハジムメルノ諸研究ハ哲理經濟學ニ寄與スル處尠カラズ、マツクス・ウエーバーノ諸述作ハ更ラニ幾多ノ新研究ヲ刺戟シ、ウキーザー亦タ老來更生、勢ヲ以テ獨得ノ領域ヲ拓キツツアリ。而シテ著者ノ右二書ハ、此ノ間ニアツテ更ラニ別個ノ新方面ヲ開拓シタルモノニシテ、カール・メンガーノ遺著ノ改版ニ方リ、其編纂者タル其ノ子カール・メンガー之レニ序シテ父ノ研究以來、右理論經濟學ノ進歩ニ貢獻スルコト大ナルモノニ、米國及日本ノ諸學者アリト稱揚シタルハ、實ニ本著書ノ如キモノアルニヨルト云フモ過言ニアラズ。殊ニ「貨幣ト價值」ハ、右諸氏ガ未ダ著手スルニ及バザリシ問題ニ關スルモノニシテ、評價社會ノ本質ヲ闡明シテ流通經濟ノ成立ト發展ノ行程ヲ極メテ明瞭ニ論述シ、評價行程ノ諸階段ノ發展ハ貨幣ノ諸職分ノ進化ト相伴フモノナルコトヲ力説シタルガ如キハ、殆ド著者獨得ノ創說ニカ、ルト稱スルヲ得ベシ。此書ハ其外形ニ於テ若干不備ノ點アリテ圓熟渾成ノ作ヲ以テ目スルニハ未ダシト雖モ、構想ノ徹底、考究ノ犀利

ナル、實ニ著者述作中ノ白眉タリ。「經濟法則ノ論理的性質」ハ、論點ノ配置問題ノ取扱ニ於テ練達整備ノ跡ヲ示シ、著者研究ノ結果ヲ理解セシムルニ於テ殆ド遺憾アルヲ見ズ。唯ダ著者ハ斯學ノ定論ノ必シモ一致セザル一派ノ學說、就中リツカート等ノ所論ニ重キヲ置クニ過ギ、其ノ學說ヲ奉ゼザル他學者ノ研究ヲ輕視スルニ過グルノ觀アルハ、一ノ欠陥ト見ザルベカラズ。從テ著者ガ其ノ研究ノ結果トシテ主張スル所論中ニハ、向後猶ホ十分ノ討議ヲ經ルニアラザレバ、之ヲ定論ト爲スコトヲ得ザルモノアルモノアルハ言ヲ俟タザル所ナリ。然レドス「貨幣ト價值」ニ於テ其ノ端ヲ發シ「經濟法則ノ論理的性質」ニ於テ更ラニ周到ナル練磨ヲ經タル著者ガ、理論經濟學ノ根本問題ニ對スル著者獨得ノ研究ハ、向後ノ理論經濟學ノ發達ニ重大ノ刺戟ヲ與フルモノナリ。二書共ニ刊行後十余年ヲ經タルモ、其ノ間大戰ノ爲メニ理論經濟學ノ問題ノ如キハ多ク等閑ニ附セラレタルガ爲メ、著者ノ研究ノ重要ナルハ戰後數年ノ近時ニ至リ、再ヒ學者ノ注意ヲ促ガスコトトナリ、殊ニシユモラー對メンガーノ論爭以來、中絶シ居リタル方法論ノ研究ヲ新タニ促進スル上ニ於テ甚大ノ價值ヲ有スルモノナルコト、諸外國ノ學者並ニ本邦學者ノ齊シク認ムル所トナレリ。要スルニ著者ノ本二書ハ、理論經濟學ニ關スル重要ナル研究ニ屬スルモノト云フベシ。